

令和5年度 金光藤蔭高等学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

建学精神	：我々が天地の大徳によって生かされ、家族をはじめ多くの人々の祈りによって育てられていることの自覚と感謝の念から発して、その自分を大切に、将来世のお役に立つ人間となって、世界真の平和達成と文化の発展のために貢献し、そこに生甲斐と喜びを見出す人でありたいという念願に立って、教育の徹底を期する。
教育理念	：「人間平等」・「個性尊重」・「心を育む」を柱に、情操教育（4つの力を育てる）を推進する （4つの力）道徳的価値を養う教育／命の尊さを学ぶ宗教的教育／美的センスを育てる教育／自ら考える力を養う教育
教育目標	：①基本的生活習慣の確立 ②高い規範意識と社会に通ずる礼節を身につけさせる ③個を伸ばす指導

2 中期的目標

1 法人理念の徹底と教育理念の浸透	(1) 法人理念の徹底 (2) 教育理念の浸透	(2) 業務を通じた人材育成 (3) 新しい取り組み (学びなおし委員会・ICT情報教育委員会・メディアプロモーション係の新設)
2 教育内容の充実／改編	(1) 現コース（カリキュラム）の充実 (2) 基礎学力の定着⇒学びなおし⇒「学びたいむ」の取り組み (3) 生徒指導の充実 (4) 進路指導の充実 (5) コース構成の改編 ⇒ 令和6年度募集へ向けての改編 (スタンダード／エンカレッジ／アートアニメーション／トップアスリート)	4 広報募集活動 (1) 広報活動の充実強化 (2) メディアプロモーションの新設 (PV・学校案内・オープンスクール・入試説明会・インスタグラム・ホームページ)
3 学校組織活動の充実発展	(1) 学校組織の活性化	5 新型コロナ対応 (1) 5類感染症への移行に伴う、国および大阪府の指針に沿った対応 6 創立100周年に向けて (1) 本部組織を受けて校内体制の整備

【自己評価の結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価の結果と分析 【アンケート】 ○生徒・保護者<令和6年2・3月実施>授業内容を中心に学校生活全般について調査した。（保護者15項目、生徒15項目） ○教職員 <令和6年4月実施>授業評価・生活指導・学校改革の成果について検証した。（15項目） 【分析】 ○生徒・保護者アンケートではほとんどの項目で約80%以上の生徒が肯定的な意見を示している。 ○教職員による自己評価では、「6コースのそれぞれが特色を生かした学習活動を実践した」と100%の教職員が実感している。また「課題を抱える生徒について担任・学年・教育支援・生徒部・スクールカウンセラーが連携し組織的に丁寧に取り組んでいる」の項目でも約99%の教職員が共感し実践している。今後も一人一人の生徒に寄り添った、丁寧な教科指導、生活指導を継続していきたい。	
学校評価委員会からの意見（学校評価委員会：5月9日実施） 学校評価委員 ①学識経験者：比嘉 悟氏（近畿医療専門学校 副校長 前桃山学院教育大学 副学長） ②本校 PTA 会長：中田 由美氏	
1 法人の理念と教育目標の浸透 (1) 法人の理念の徹底 ア)建学精神の徹底については、生徒、78%・保護者の87%が心の教育を実感、特に保護者が87%理解しているのは素晴らしい。	エ)96%の生徒がルールを守り挨拶を行っているは評価できる。 (4) 進路の充実 進学率が増加したのは評価される。
2 教育内容の充実改善 (1) コース内容の充実・検証 各コースは目標に沿って成果を上げている。 ア)の特別進学コースは多く生徒が希望する大学に進学することができた。ウ)の「エンカレッジコース」は「学びなおし」を募集のコンセプトに入れることで先生方の努力で84%が進級、3年生は34名中27名が進学した。エ)のITライセンスコースは上級学年の多くの生徒が2級以上の上級を獲得している。 カ)のトップアスリートコースは各クラブの成績が向上し令和6年度は生徒が昨年度と比較し122名・4クラス編成になり大幅に増員した。 キ)の課題を抱える生徒の対応もアンケート調査で先生と生徒の関わり方も高い数値を示している。また、保護者も80%が肯定している。以上、コースの充実が検証されている。	3 学校組織活動の充実発展 (2) 新任の常勤講師対象の研修を充実させたことは評価できる。イ)ベテラン・若手が協力して課題解決と新しい取り組みにチャレンジしている項目に教員79%が認識している。 (3) ア)学習内容の構築。イ)ICTの活用を主動、ニーズに合った幅広い広報活動など新しい取り組みを取り入れたのは評価に値する。
(2) 基礎学力の定着と向上の取り組み イ)放課後に実施した特別講習を受講した生徒の全員が満足をしている。エ)の生徒によるアンケート調査では、「授業は分かりやすく工夫されているか」について83%の生徒が満足していると回答。保護者も丁寧で分かりやすい授業を行っていると91%の保護者が満足していると回答。教員の授業の取り組み方は本年度も評価される。	4 広報募集活動 (1) 広報募集の強化 ア)オープンキャンパスは昨年度より123名増しの490名は評価できる。ウ)新入生が307名となったのは、大きく評価できる。教職員全員の取り組みの成果である。
(3) 生徒指導の充実 転退学率は昨年と同様である。またイ)の生徒指導案件は昨年から22件減少した。ウ)の人権侵害がゼロは昨年同様誇れる事である。	5 新型コロナの取り組み ア)すべての学校行事を中止・延期・規模縮小せず、実施できたことは、生徒にとっても明るい材料になりより活性化に結びついた。
	6 100周年に向けて (1) 未来型思考型の学校風土の醸成：教職員特に若手中堅の意見・アイデアを取り入れ5年後10年後のビジョンの創作に努める。一人一人の生徒に誠実に真摯に向き合い、保護者との連携をさらに深め、教職員が魅力ある学校づくりのために日々研鑽しチャレンジできる環境を整えるように期待する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

目標 中期的	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
法人理念の徹底と教育理念の浸透	(1) 法人理念の徹底 ア 建学精神の徹底 イ 本部参拝・感謝祭	(1) 法人理念の徹底 ア 建学精神を全ての教育活動の基本として、教職員・生徒・保護者への啓発に努める。 イ 新型コロナの状況に応じて、宗務課と調整のうえ、実施を検討する。	ア 式典・行事をはじめ、学年・学級での指導を通じて、建学精神を理解させる。 イ 天地・人・物への感謝と、社会のお役に立つという「心の教育」を本部参拝・感謝祭を通じて体現する。	ア 生徒78%・保護者87%が心の教育を実感していると認識している。式や行事の他、学年集会や日々のホームルームでの指導が生徒に浸透しているようである。 また昼休みや放課後、神徳堂（お広前）を訪れる生徒も多く、宗務課教員との対話を通して心の癒しを得ている生徒も多い。 イ 75%の生徒が学校行事として認識している。コロナ禍の影響で4年ぶりに2年生が本部参拝を実施することとなった。感謝祭・宗教の授業の中で「日々生かされている」「世のお役に立つ人間になる」ことへの意識喚起を促すことができた。感謝祭では参列した3年生全員が、感謝の気持ちをもって日々の学校生活を過ごす決意を新たにされた。
	(2) 教育理念の浸透 ア 情操教育の実践	(2) 教育理念の浸透 ア 道徳的価値を養う、命の尊さを学ぶ、美的センスを養う、自ら考える力を養う教育を学校生活全般を通して意識し実践する。	ア HR・授業・課外活動や修学旅行・校外学習・コース別行事等を通じて、情操教育の実践を心がける。	ア 93%の教員が諸活動を通して、情操教育の実践に取り組んでいると認識している。
教育内容の充実改善 「コース検証・学力向上・生徒指導・進路指導」	(1) 現コースの充実 ア 特別進学	(1) コース内容の充実・検証 ア 特別進学については、少人数制の利点を生かして個々の学力向上に努める。各種講習や勉強合宿での内容の充実を図ると同時に、関西福祉大学をはじめ、大学見学や体験を通して進学意欲を持たせる。	ア 希望する四年制大学への全員合格を実現する。	ア 特別進学コースは入試対策・夏季・冬季講習に力を入れ、近畿大学・京都産業大学をはじめ多くの生徒が希望する大学に進学することができた。
	イ ライフクリエイティブ	イ ライフクリエイティブについては、キャリア科目の充実・改編を進める。	イ 生徒の関心を高め、進路選択へ繋げるキャリア科目の設定。	イ ライフクリエイティブコースは協力校である辻学園、日本理美容専門学校・大阪自動車整備専門学校に多数進学した。今後もより強い連携を続けたい。
	ウ エンカレッジ	ウ エンカレッジについては、具申書・高校生活カードや入学前面談等を十分活用して、個別教育支援計画の作成等を丁寧に行う。 生徒・保護者との連携を密にし、「学びなおし」と「体験型授業」を実施する。	ウ エンカレッジ生徒の出席状況の改善、満足度の向上を図る。	ウ エンカレッジコース開設7年目、「学びなおし」を募集のコンセプトに入れることで、入学者数の安定に繋がっている。 入学前面談実施や個別教育支援計画の作成に力を入れ、担任・学年が中心となって粘り強い取り組みを実施し84%が進級することができた。3年生は34名中27名が進学した。
	エ ITライセンス	エ ITライセンスについては、専門学校との連携を密に、各種検定・資格取得の向上を目指す。また、動画分野やグラフィックデザイン、e-Sports 分野への拡大を検討。	エ ITライセンスは、ITパスポート（国家資格）をはじめ、各種検定試験の合格率向上を進路に反映させる。	エ ITライセンスコースは資格取得に向けて上級学年の多くの生徒が2級以上の上位級を取得できた。

教育内容の充実改善「コース検証・学力向上・生徒指導・進路指導」	オ アートアニメーション カ トップアスリート キ 課題を抱える生徒への対応	オ アートアニメーションについては、既存の商業美術的アニメ制作の域を超え、「デジタル制作の幅を広げる」ことを目的に展開していく。 カ トップアスリートについては、6強化クラブの底上げ。次年度以降に向けて、追加種目(女子募集)の検討を行う。 キ 課題を抱える生徒への対応については、担任・学年を中心に、教務部(教育支援係)・生徒部・スクールカウンセラーが連携し、組織的に丁寧に取り組む。	オ 制作の喜びを味わうことのできる内容、総合的なプレゼンテーション能力の向上を図る。 カ 強化クラブの実績アップと生徒募集の成功。 キ 学校への登校、進級・卒業に向けた幅広い学校生活のサポートを丁寧に行う。	オ アートアニメーションコースは目的意識をはっきり持った生徒の確保につながっている。3年生は美術系やイラスト・声優分野の大学、専門学校へ多く進学した。 カ トップアスリートコースは、柔道部の個人1名がインターハイ出場、団体・個人2名が選手権大会出場、近畿大会(団体・個人3名)に出場し個人で優勝。 女子ソフトボールはインターハイ出場をはじめ全国選抜大会・近畿大会に出場。 男子バスケットボール部はWINTER CUP 予選ベスト16。 女子バスケットボール部は、インターハイ予選6位・WINTER CUP 予選ベスト8、昨年に続き近畿大会出場。 令和6年度トップアスリート入学生は122名・4クラス編成となり昨年度に比べ大幅に増員した。 キ 担任・学年は生徒の登校状況を把握し、教育支援係等との連携で対応した。アンケートで「生徒の心身の悩みに先生が丁寧に対応しているか」には89%の生徒、「教員やスクールカウンセラーに気軽に相談できる」には80%の保護者が肯定している。今後も認定会議を通して、具体的な個別の支援策を迅速に打ち出せるよう連携を強めたい。
	(2)基礎学力の定着と向上 ア 全生徒への基礎基本の徹底 イ 学習意欲のある生徒への特別対応 ウ 研究授業の実施	(2)基礎学力の定着と向上 低学力の生徒が多い。在籍者全体の基礎的学力の定着と、進学希望生徒の学力アップ ア 基礎力指導(HR)や学習方法の充実・工夫に力を入れる。 イ 英語検定等の対策講座や外部模擬試験の受験を積極的に展開する。 ウ 授業改善や授業力向上に向けて研究授業等に取り組む。	ア 校時に設定した「学びたい」・「聴く力・考える力」を養う授業。 イ 教員による進学特別講習、藤蔭塾(放課後の自学自習サポート教室)を充実させる。 ウ 教諭・常勤講師を対象として各教科で研究授業を実施する。 ウ 公開授業を年間2回の期間を設けて実施する。	ア 新たに「学びなおし委員会」を設置し学年ごとに「学びなおし」教材を工夫し実践した。今後の課題として各クラス間でモチベーションの差がないよう、生徒が達成感を感じるような教材の選定や授業作りを継続させたい。 イ 放課後に実施した特別講習を受講した生徒の全員がその内容に満足している。また自学自習サポート教室(藤蔭塾)も大学院生のアシスタントによるきめ細かなサポートのおかげで、生徒たちの学習意欲を高めることができた。 ウ 令和5年度においては、研究授業・公開授業を実施することができなかった。令和6年度は積極的に実施していきたい。

教育内容の充実改善「コース検証・学力向上・生徒指導・進路指導」	エ 生徒による授業評価	エ 生徒による授業評価を授業改善に活かす。	エ 教諭・常勤講師全員が生徒による授業評価を実施して分析する。	エ アンケートでは「授業はわかりやすく、工夫がされているか」との質問に83%の生徒が満足を感じている。同じく「本校では基礎学力向上に向けて丁寧でわかりやすい授業を行っている」との質問に91%の保護者が満足していると回答している。しかし、科目別担当者によっては課題となる授業がみられたので、教科内で共有し教員一人一人の課題克服・授業改善につなげたい。	
	(3)生徒指導の充実 ア 生活習慣・学習習慣の確立	(3)生徒指導の充実 生活背景や学習意識に課題を抱えて育ち、生活習慣未確立や学習習慣のない生徒が多い。生活習慣・学習習慣や自尊感情の醸成に力を入れて、出席状況や授業態度の改善に取り組む。 ア 転退学者数の改善を継続して行う。「3年間お預かりして育てる」「社会のよき構成員として世に送り出す」という使命感を大切にす。	(3)生徒指導の充実 生活背景や学習意識に課題を抱えて育ち、生活習慣未確立や学習習慣のない生徒が多い。生活習慣・学習習慣や自尊感情の醸成に力を入れて、出席状況や授業態度の改善に取り組む。 ア 転退学者数の改善を継続して行う。「3年間お預かりして育てる」「社会のよき構成員として世に送り出す」という使命感を大切にす。	ア 転退学者5パーセント以下を達成する。	ア 転退学者数 ・令和3年度→33名(3.53%) 転学20 退学13 ・令和4年度→62名(6.61%) 転学29 退学33 ・令和5年度→55名(6.76%) 転学28 退学27 令和5年度の転退学率は昨年同様6%台となった。転退学者の約89%は「不登校」を含む「学校生活学業不適応」や「進路変更」が理由であった。 入学生の多くが小・中学時に家庭的、経済的、学習的に多くの課題を抱えている背景があることは否めない。 生活習慣未確立や学習習慣のない生徒の自尊感情の醸成にさらに力を入れ、出席状況や授業態度の改善に取り組むたい。
	イ 生徒間のトラブルや、SNS 関連を含む生徒指導事案の防止	イ 高校生らしい友達関係の構築が難しいケースがある。コミュニケーション能力を高め、望ましい対人関係を身に付けさせる。SNS の弊害や正しい使い方を教える。	イ 指導事案の発生防止に繋がる日常の事前指導に重点を置く。	イ 指導事案の発生防止に繋がる日常の事前指導に重点を置く。	イ 全体の生徒指導案件は昨年の32件から22件と減少した。そのうちSNSの不適切な使用による事案が年々増加傾向にあり、HRや学年集会で今後も注意をよびかけ、事案を未然に防ぐように継続して指導していきたい。
	ウ 人権侵害事象の根絶 エ 挨拶・マナー等の徹底	ウ 道徳的価値観・命の尊さ・社会規範をしっかりと理解させ、生徒間の人権侵害事象は起こさない。 エ 学校内外のあらゆる場面における礼節(挨拶・礼儀・節度ある行動)を習慣化するように指導を徹底する。	ウ 人権侵害事象はゼロを目指す。 エ 望ましい服装・身だしなみや、礼節を徹底させる。	ウ 人権侵害事象はゼロを目指す。 エ 望ましい服装・身だしなみや、礼節を徹底させる。	ウ 人権侵害事象はゼロであった。 エ 96%を超える生徒が「ルールを守り、挨拶もきちんと行なっている」と答えている。いろいろな場面での挨拶指導が浸透してきている。
(4)進路指導の充実 ア 進学実績の向上	(4)進路指導の充実 ア 大学・短大・専門系学校への進学実績を向上させる。	(4)進路指導の充実 ア 大学・短大・専門系学校への進学実績を向上させる。	ア 四年制大学をはじめ進学者を前年度よりアップさせる。	ア 令和5年度の全体の進学率は76.9%から80.0%と増加した。大学進学率は昨年度の44.3%から41.5%へとわずかに減少し、専門学校進学率が30.5%から35.5%と増加した。大学合格者数の約半数(48%)が指定校推薦で、専門学校は88%が総合型(A0)であった。	

	イ 望む職業への就労実現	イ コロナ禍が続き、現役高校生には非常に厳しい情勢ではあるが、卒業段階での未進学者・未就労者の数をできる限り減らすことを目標とする。	イ 未進学者・未就労者を前年度より減らす。	イ 進学希望者の中での未決定率は浪人希望を含め1.5%、就職希望者の中で就職内定率は100%であった。その他の未決定者数は20名。進路未決定者ゼロを目指し、今後も粘り強い進路指導を継続していきたい。
	(5)コース編成の改編	(5)コース編成の改編 ア 令和6年度募集に向けての改編 入学時6コース → 4コースへ スタンダード・エンカレッジ・アートアニメーション・トップアスリート	ア 新しいコース編成に向けて、カリキュラムを構築する。	ア 新コース(スタンダード)編成に伴うカリキュラム・各講座の見直しを実施した。入学生110名と最終的な目標の120名には及ばなかった。次年度においてカリキュラム・校時等の大幅な変更をおこない中学生のニーズに合った魅力あるコース創りに努めたい。
学校組織活動の充実発展	(1)学校組織の活性化	(1)学校組織の活性化 ア 組織的・機動的な学校体制の確立 教科指導やクラブ指導は専門性が必要、学年や分掌組織は組織力・機動力・実行力が必要である。それぞれが、連携を密に活発な業務活動を展開する。	ア 適性を配慮した人事配置を行う。 ア 将来を見据えた教員の採用を行う。	ア 準専任教員選考には11名の常勤講師が臨み、4名が任用となった。常勤講師は任期満了者に代わり、新規に10名を採用した。生徒の学習指導や教育活動に熱心に取り組む教員の採用に今後も全力を尽くす。
	(2)業務を通じた人材育成	(2)業務を通じた人材育成 ア 管理職や分掌組織の組織的業務を通して、5年後、10年後の担い手を育成する。 イ 課題抽出、発展的改編型の業務を展開し、ベテラン・若手が協力して課題解決と新しい取り組みにチャレンジする。	ア 管理職や校務運営委員会メンバーを中心に、重要な学校課題に向き合い業務を実践させる イ 教職員間のコミュニケーションとディスカッションを大切にする。	ア 新任の常勤講師を対象に研修を充実させ、学年部長や分掌長が中心となり学級経営、生活・学習、学校業務に関する細かい指導を行った。 イ ベテラン・若手が協力して課題解決と新しい取り組みにチャレンジしているかの項目に教員の79%がその取り組みを認識している。また管理職(教頭補佐)が様々な校内・校外研修を提示し、若手教員も積極的にそれに参加し、自己研鑽力を高めている。
	(3)新しい取り組み	(3)新しい取り組み ア 学びなおし委員会 イ ICT情報教育委員会 ウ メディアプロモーション係	ア 学習内容の構築を行う イ ICTの活用を主導する ウ ニーズに合った幅広い広報の実践を行う。	ア 令和6年度におけるカリキュラムの再編に向けて「学びなおし委員会」を中心に学習内容の構築を行い、スタンダードコース1年時に英・国・数の「学びなおし」授業を取り入れた。 イ 校内ICT化についての第1段階として、委員会を中心に業者を含め検証・研修・会議を重ねた。令和6年度から教員一人一台体制を段階的な導入に向け検討中。 ウ インスタグラム・LINE・YouTube等を活用し学校行事・クラブ活動等をタイムリーにアップして、若年層のニーズに合った広報を行っている。

広報募集活動の充実強化	(1) 広報募集活動 ア 組織的な広報展開	(1) 広報募集の強化 ア 総務部（入試広報）の組織的な広報展開。渉外担当者5名、教員担当者2名、事務室担当者1名が中心となり、広報活動の運営に当たる。渉外担当者の内1名は、通常の業務に加え、陸上競技部の創設にも従事する。	ア オープンスクール・学校説明会・中学校対象説明会・塾長説明会・個別相談会・私学展等全般を通して、丁寧かつわかりやすい広報活動を行う。	ア 本校の特化した学びの魅力をより伝えるため中学生・保護者対象のオープンスクールを例年の3回から4回に、入試説明会を4回から3回に変更した。塾長対象・中学校教員向けの説明会もそれぞれ実施した。またエンカレッジコース対象の個別相談会を2回実施した（相談実人数222人）。オープンスクール参加者は昨年度より123名増の490名。入試説明会は昨年度より103名減の285名であった。
	イ 外部広報 ウ 入学生徒の確保 エ 校内食堂の充実	イ 外部広報 学校案内・ポスター・冊子等を企画・作成する。ホームページについては、総務部がリアルタイムで情報を発信する。加えて、公式Instagramによる情報発信。 ウ 入学生徒の確保 本校を対象とする生徒層を本校の「学校体制」と「教育内容」で丁寧に3年間育て上げるということで、生徒・保護者・中学・塾等の外部評価を得る。 エ 新しい食堂業者により、質の向上を図り、在校生の満足度、中学生向けに魅力ある食のPRを発信する。	イ 中学生・保護者向けに、魅力ある媒体を提供する。 ウ 令和6年度入試において、300名を超える入学者数を確保する。 エ オープンスクール等での食堂体験など企画し、中学生の関心度アップにつなげる。	イ 学校案内冊子の発行を早め、中学校への速やかな広報活動を開始した。 ウ 新入生307名となり目標を達成することができた。令和6年度はカリキュラム・校時の改編を全面に中学校・塾にアピールし、広報活動の強化・充実に図りたい。 エ 「校内食堂はメニューや価格をはじめ美味しさにも満足している」に97%の生徒が満足として回答している。オープンスクール等で多くの中学生・保護者に食堂を体験してもらい本校のアットホームな雰囲気を感じ取ってもらいたい。また食育の一環として、低価格での朝食提供（朝活）を検討している。
	(2) メディアプロモーションの新設	(2) メディアプロモーションの新設 ア PV・学校案内・オープンスクール・入試説明会・Instagram・ホームページ	ア 本校の募集に関する外部への情報発信を積極的に行い、入学者増を目指す。	ア ホームページをはじめ公式Instagram・LINE・YouTube等を活用し、中学生や保護者によりわかりやすく親しみやすさをアピールし、学校行事等もタイムリーにアップするよう努めた。
新型コロナ対応	(1) 新型コロナ対応	(1) 5類感染症への移行に伴う、国および大阪府の指針に沿った対応 ア マスク自由化と予防・対応	ア 国・自治体の方針に沿って、予防・対応に努める。	ア 令和5年度については感染対策をとりながら、すべての学校行事を中止・延期・規模縮小することなく実施することができた。またコロナによる教育活動に支障はなく学級閉鎖もなかった。
創立100周年に向けて	(1) 未来志向型の学校風土の醸成	(1) 未来志向型の学校風土の醸成 令和8年（100周年）に向けて、教職員一人一人が将来の本校の姿を描きながら、日々の業務に向き合い、意識させるようにする。	ア 様々な学校課題に連帯感を持って、前向きに取り組む、学校の一体感を醸成する。	ア 若手・中堅の教職員の意見・アイデアを取り入れながら希望ある本校の5年後・10年後のビジョン・目標に向けた話し合い等の実施。一人一人の生徒に誠実に真摯に向き合い、保護者との連携をさらに深め、教職員が魅力ある学校づくりのために日々研鑽しチャレンジできる環境を整えられるよう努めたい。